第２次
秋田市エイジフレンドリーシティ
（高齢者にやさしい都市）
行動計画

秋田市
平成 29 年 3 月

はじめに

近年、人口減少や少子高齢化をはじめ、社会環境が著しく変化する中、本市においても、全国平均を上回るペースで高齢化が進行しておりますが、長寿の実現は、人類の発展と成熟社会の証でもあります。

こうした中、本市では、「エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の実現」を目指し、平成２５年８月には「第１次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画」を策定し、高齢者の社会参加や生きがいづくりの促進、市民活動団体による普及啓発など、地域社会全体でエイジフレンドリーシティに取り組む体制を築いてまいりました。

これにより、人口減少・少子高齢化という社会構造の変化に対して、私たち行政のみならず、様々な立場の方がこの問題に取り組み、試行錯誤を繰り返しながらも、解決に向けて歩み続ける活動の輪が広がりつつあります。

今こそ、「人生６５年時代」を前提とした、高齢者の捉え方や社会制度等に対する意識を「人生１００年時代」を前提としたものへと転換させ、いくつになっても自分らしく暮らすことができ、誰もが秋田市に住んでいて良かったと思えるようなまちづくりへと、大きく舵を切るときです。

このたび策定した「第２次秋田市エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）行動計画」では、第１次行動計画で達成された多くの成果をさらに発展させ、行政、市民、民間の三者の協働による地域課題の解決を目指しています。そして、高齢者が持つ豊かな経験や知識、意欲を活かすことにより、地域社会や経済の発展につなげる「秋田市モデル」を着実に推進し、力強く邁進する秋田市を形づくるとともに、次世代へと引き継いでまいりたいと考えております。

結びに、この行動計画の策定にあたり、熱心にご協議いただきました推進委員の皆様をはじめ、貴重なご意見やご提案をいただいた市民の皆様や関係機関、団体の皆様に心から感謝を申し上げます。

２０１７年3月

秋田市長　穂　積　　志

目　次

第１章　計画の策定にあたって

1　行動計画策定の趣旨 …… 1
2　行動計画策定のプロセス …… 2
3　秋田市の現状と課題 …… 3

第２章　行動計画の基本的な考え方

1　基本理念および基本目標 …… 7
2　行動計画の位置づけ …… 8
3　行動計画の計画期間 …… 9

第３章　行動計画の推進体制と進行管理

1　行動計画の推進体制 …… 10
2　行動計画の進行管理 …… 10

第４章　４つの領域における取組と重点施策

1　領域の設定について …… 12
2　領域Ⅰ　空間環境基盤 …… 12
3　領域Ⅱ　社会生活基盤 …… 14
4　領域Ⅲ　産業・経済基盤 …… 15
5　領域Ⅳ　教育・文化基盤 …… 16
6　重点施策 …… 17

第５章　行動計画施策体系

1　行動計画施策体系図 …… 18
2　基本目標と領域別施策の関連性 …… 19

参　考　資　料

1　脚注一覧 …… 20
2　秋田市エイジフレンドリー指標体系図 …… 21
3　秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会設置要綱 …… 22
4　秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会委員名簿 …… 24
5　策定までの経緯 …… 25
6　若手職員意見交換会・市民の集い・エイジフレンドリーパートナーの集い
　　意見の取りまとめ …… 26

第１章　計画の策定にあたって

1　行動計画策定の趣旨

人口減少・少子高齢化が急速に進行する中、本市では、新たな視点での高齢化への対応として、２００９（平成２１）年、世界保健機関（以下「ＷＨＯ」という。）が提唱する「エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の実現」に向けた取組に着手しました。２０１１（平成２３）年１２月には、日本国内の自治体として初めて、ＷＨＯが設立したＷＨＯエイジフレンドリーシティ・グローバルネットワーク[*1]に参加、２０１３（平成２５）年８月に策定した第１次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画（以下「第１次行動計画」という。）では、「高齢になっても地域社会で活動、活躍することができ、いきいきと過ごすことができる社会」を基本理念に据え、高齢者が「社会の支え手」として役割を担い、自身の意欲と能力を十分に発揮して活動・活躍することができる社会を、市民と共に目指す方向性を定めました。第１次行動計画期間内において、高齢者の外出や社会参加・生きがいづくりの促進、エイジフレンドリーシティの推進を目的として結成された市民活動団体による普及啓発事業、さらには民間事業者等による高齢者や障がい者に配慮した取組などを推進し、地域社会全体でエイジフレンドリーシティに取り組む体制を築き、一定の成果を上げてきたところです。

しかしながら、第１次行動計画策定から４年が経過した今、本市を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いており、公共施設や道路など都市基盤施設の維持管理等にかかる負担増、地域社会や労働市場における担い手・人材不足、コミュニティの弱体化等による共助[*2]機能の低下など、様々な課題の解決は待ったなしの状況にあります。

第２次秋田市エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）行動計画（以下「本計画」という。）は、第１次行動計画に引き続き、エイジフレンドリーシティの実現を目指して、これまで達成された多くの成果を踏まえつつ、それらをさらに発展させ、地域社会全体で目標・理念を共有しながら、行政、市民、民間の協働による地域課題の解決を目指すものです。

健康長寿の実現は私たちの理想であり、高齢化をマイナスに捉えるのではなく、人口構成の変化等による様々な課題に正面から向き合い、一つ一つ解決を図っていくことを通じて、誰もが充実してその人らしく生きることができる社会づくりにチャレンジしていくことが必要です。超高齢社会[*3]の課題解決先進地として、高齢者の持つニーズや多様性をより深く理解し、活かすことで、地域社会や経済が将来に向けて発展する「秋田市モデル」として着実に推進し、成熟や質的な向上による暮らしの豊かさを次世代に引き継いでいきます。

2 行動計画策定のプロセス

（1）秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会

本計画の策定にあたっては、第１次行動計画の円滑な推進を図るため、２０１４（平成２６）年５月に設置された「秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会」において検討しました。

（2）調査の実施

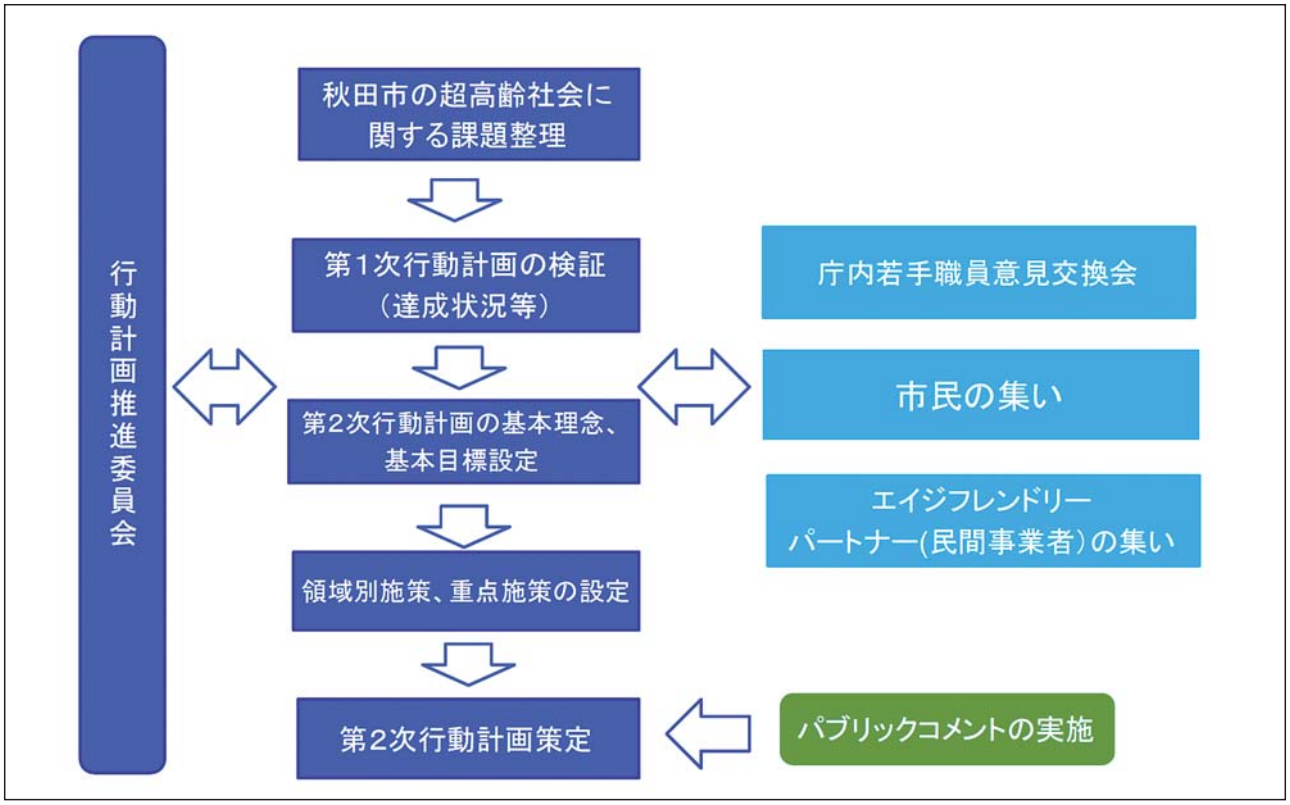
第１次行動計画を見直すにあたり、これまで以上に、秋田市が高齢になってもいきいきと健康に過ごせる社会とするための基礎資料として、２０１５（平成２７）年１２月に「秋田市エイジフレンドリーシティ市民意識調査」、２０１６（平成２８）年５月に「秋田市エイジフレンドリーシティ民間事業者アンケート調査」を実施しました。

（3）行政、市民、民間事業者による意見交換会の実施

市職員、市民、民間事業者による意見交換会を実施し、超高齢社会の課題や目指す方向等について共有を図りながら、秋田市を元気にするためのアイディアや長期的な視野で連携を図る必要のある施策等について検証しました。

（4）パブリックコメント*4の実施

計画に多くの市民の方々の意見を反映していくために、パブリックコメントによる意見聴取を実施しました。



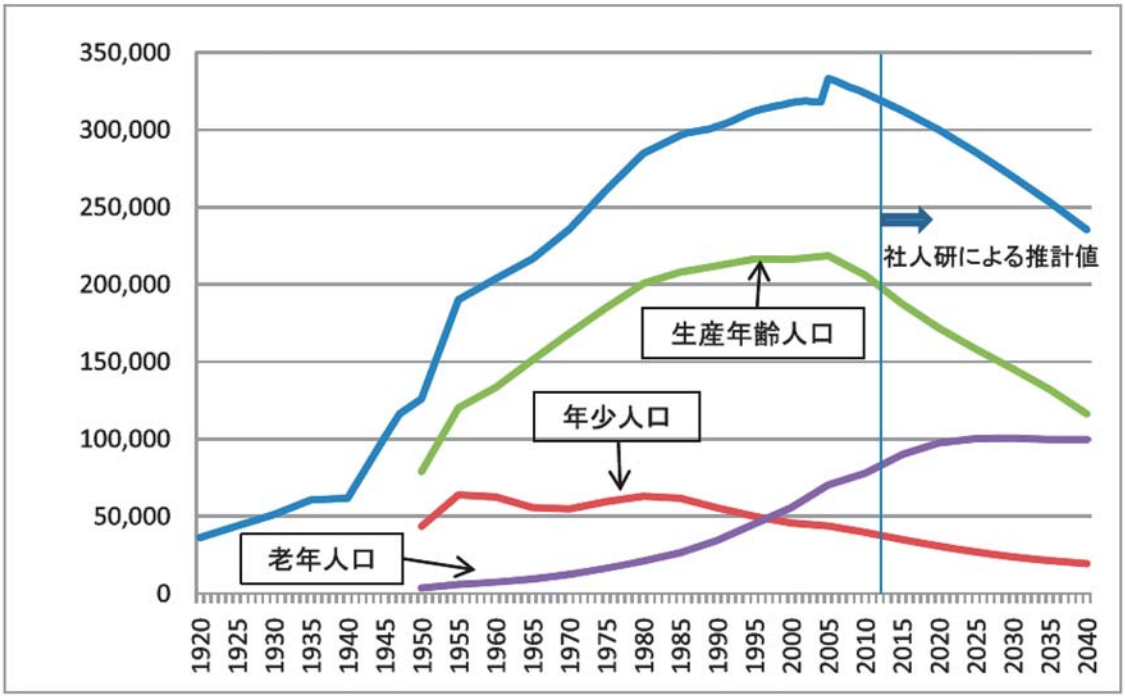
3 秋田市の現状と課題

（1）秋田市の総人口・高齢化率*5の推移

ア　総人口の推移

本市の人口は、２００５（平成１７）年には河辺町・雄和町と合併し、３３万人に達しましたが、その後は減少が続き、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）によると、２０４０（平成５２）年には約２３万５千人になると推計されています。

図１　総人口と年齢３区分別人口の推移



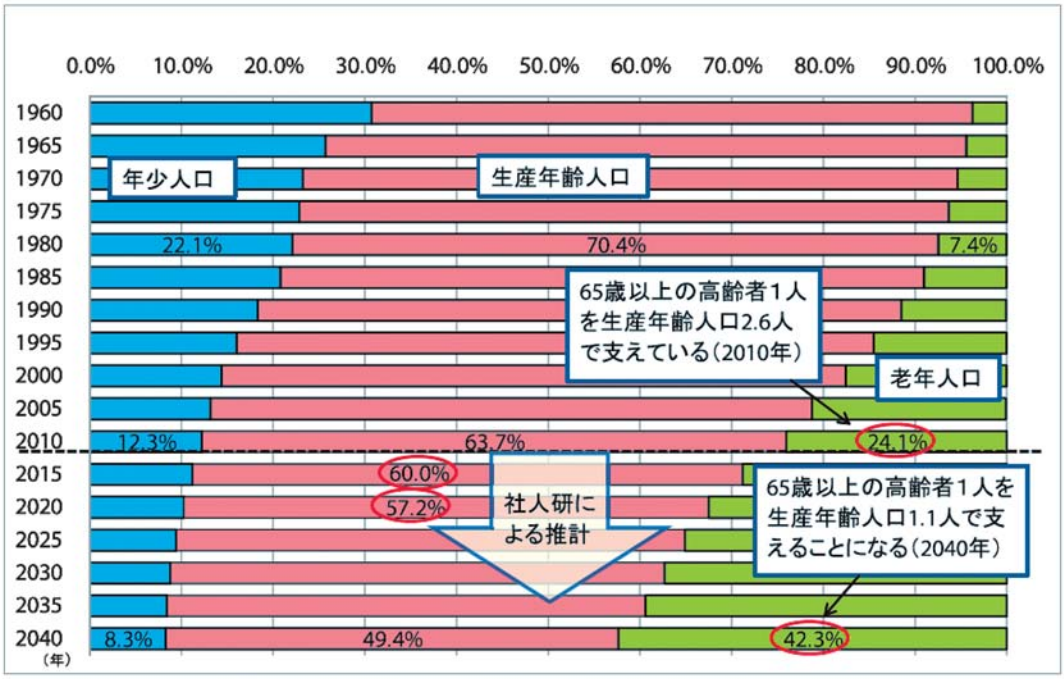
※年少人口：15歳未満　生産年齢人口：15歳以上65歳未満　老年人口：65歳以上
※2010年までの総人口は国勢調査および秋田市情報統計課推計人口より作成
※2010年までの年齢３区分別人口は国勢調査より作成
※2015年以降は社人研「日本の地域別将来推計人口（平成25年３月推計）」より作成

（出典：秋田市人口ビジョン）

イ　年齢３区分別人口の割合の推移

年少人口割合（１５歳未満）が一貫して減少する一方で、老年人口割合（６５歳以上）は一貫して増加を続け、生産年齢人口割合（１５～６４歳）に近づいていきます。老年人口（６５歳以上）にあっては、２０１０（平成２２）年から２０４０（平成５２）年までの３０年間で約２万２千人増加（＋２８.２％）、構成割合も２４.１％から４２.３％に上昇、このうち約６割が７５歳以上になると推計されます。

図２　年齢３区分別人口の割合の推移



※年少人口：15歳未満　生産年齢人口：15歳以上65歳未満　老年人口：65歳以上
※2010年までの年齢３区分別人口は国勢調査より作成
※2015年以降は社人研「日本の地域別将来推計人口（平成25年３月推計）」より作成

（出典：秋田市人口ビジョン）

ウ　高齢化率の上昇

全人口の６５歳以上の高齢者が占める割合、いわゆる高齢化率については、増加の一途をたどっており、２０１０（平成２２）年の２４.１％から３０年後の２０４０（平成５２）年には、４２.３％と大幅に増加する見込みです。

図３　高齢化率の上昇

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0～14歳	12. 3%	11. 2%	10. 3%	9. 4%	8. 8%	8. 4%	8. 3%
15～64歳	63. 7%	60. 0%	57. 2%	55. 4%	53. 9%	52. 2%	49. 4%
65歳以上	24. 1%	28. 8%	32. 5%	35. 1%	37. 3%	39. 4%	42. 3%

＊2010年までの年齢３区分別人口は国勢調査、2015年以降は社人研「日本の地域別将来推計人口（平成25年３月推計）」シミュレーションを使用

エ　要介護（要支援）認定者数

要介護（要支援）認定者数については、認定率の高い後期高齢者（７５歳以上）の人口増加に伴い、２０４０（平成５２）年には２０１０（平成２２）年と比べて認定者数の割合が５３.０％増加すると見込まれます。

図４　要介護（要支援）認定者数の推移

単位：人

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
要介護（要支援）認定者数	16,119	18,909	22,687	24,551	24,872	25,074	24,658

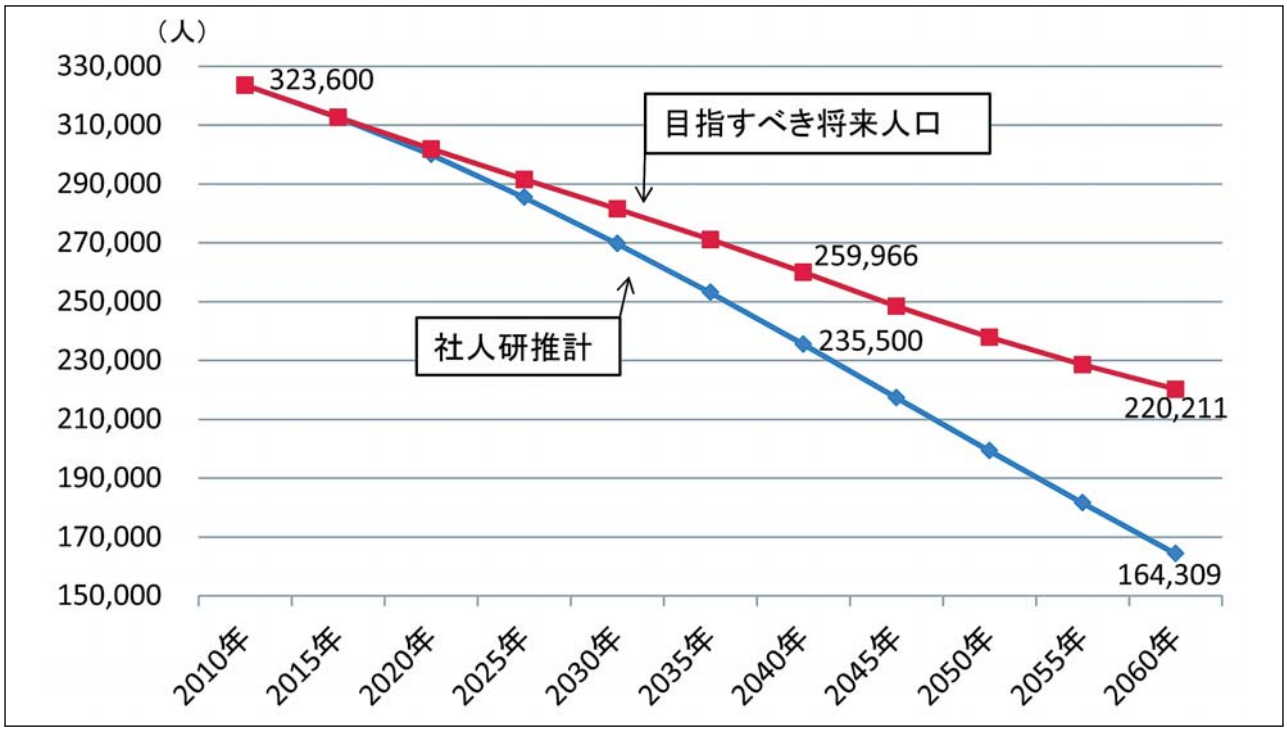
※現行制度のままで推計。制度改正があれば数値は変化する。

（出典：秋田市人口ビジョン）

オ　目指すべき将来人口

本市では、平成２８年３月に秋田市人口ビジョンと秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、２０４０（平成５２）年に約２３万５千人とされている社人研推計を２万４千人余り上回る、２６万人を目指すべき将来人口と定め、その実現に向けて着実に取り組んでいくこととしています。

図５　人口シミュレーション



（出典：秋田市人口ビジョン）

（２）本市を取り巻く課題

秋田県は日本国内において、人口減少と高齢化の先進地であり、県都である本市においても、全国平均を上回るペースで高齢化が進んでいます。さらに若者を中心とした県外への転出超過（社会減）と、出生数の減少・死亡数の増加（自然減）が相まって進み、人口減少が続いています。

人口減少問題の本質は、人口構造が大きく変化することであり、総人口に占める高齢者人口の比率が高まることにより、生産年齢人口に対する年金、医療、介護などの

社会保障負担の増大や、公共施設や道路、上下水道など都市基盤施設の維持・管理等にかかる費用対効果の減少が懸念されます。また、経済面に及ぼす影響として、企業における労働力と担い手不足が懸念され、市場の縮小と深刻な地域経済の停滞が予測されます。

一方、地域社会においては、高齢者のみ世帯（単独または夫婦のみ世帯）が今後も増加すると予想され、家族機能の低下や、高齢者の孤立・引きこもりが進み、要介護認定率の上昇につながることが懸念されます。加えて、地域コミュニティ活動や文化的行事の担い手不足、地域のつながりの希薄化などにさらなる拍車がかかることが見込まれます。

こうした状況に今すぐ歯止めをかけることは困難ではありますが、本市の経済や医療・介護、地域コミュニティなどに与える影響等をしっかりと検証した上で、元気な秋田市をしっかりと次の世代に引き継いでいくために、今こそ、この問題に正面から取り組む必要があります。

（３）今後、重点的に取り組むべき課題

超高齢社会の課題を明確化、共有化するために実施した、行政、市民、民間事業者による意見交換会（Ｐ.２６～４１）の結果から、エイジフレンドリーシティの推進のために、今後、重点的に取り組むべき課題を次のとおり取りまとめました。

■　地域コミュニティの再構築

地域のつながりの希薄化が見られるなか、除雪や見守りなど、地域で困っていることの解決には、隣近所で助け合える環境づくりが必要であり、地域コミュニティの活性化により、様々な課題解決につなげる必要があります。

■　担い手不足、人材不足への対応

ビジネス、コミュニティ活動、農業、自治活動、地域の安全・安心など、様々な場面において、担い手、人材が不足しています。そのため、積極的に高齢者の活用を進める必要があるほか、地域の多様な担い手育成も重要となります。

■　地域社会の課題解決に向けたビジネスの新たな展開

少子高齢化の進行は、経済活力を損なうものとしてマイナスに捉えられがちですが、一方で社会的課題が増大・多様化しており、新たなソーシャルニーズも生まれています。そのような変化を捉え、高齢者の多様な能力を積極的に活用したビジネスの展開やコミュニティビジネスの創出、高齢者の起業支援などを積極的に行うことで、地域社会の課題解決や秋田の活性化につなげる必要があります。

第２章　行動計画の基本的な考え方

1　基本理念および基本目標

（1）基本理念

少子高齢化と人口減少が急速に進行している秋田県の県都である本市では、超高齢社会をいかに豊かなものとし、次の世代に引き継いでいくかが課題となっています。

こうした中、市民一人ひとりが豊かにいきいきと幸せに暮らすためには、健康長寿を伸ばしていくこと、そして、高齢者が支えられるだけではなく、社会の支え手としての役割を担い、活躍できる社会の実現に向け、取り組んでいく必要があります。支え手側と受け手側は常に固定しているのではなく、循環することにより、誰もが役割や地域に居場所を持つことができ、そのような社会は、全ての世代にとっての希望であり、秋田の元気を生み出す源となります。

本計画では、第１次行動計画の基本理念を踏まえ、計画期間最終年度である平成３３年度における本市の目指すべき姿として、以下のとおり基本理念を設定します。

心豊かで活力ある健康長寿社会

この理念のもと、私たちは、エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の取組を進め、誰もが秋田市に住んでいてよかったと思えるようなまちの実現を目指します。

（2）８つの基本目標

ＷＨＯは、エイジフレンドリーシティ実現のためには、「屋外スペースと建物」「交通機関」「住居」「社会参加」「尊敬と社会的包摂」「市民参加と雇用」「コミュニケーションと情報」「地域社会の支援と保健サービス」の８領域について検証が必要であるとし、この８領域を「高齢者にやさしい８つのトピック」と定義しました。本市は、この定義をもとに、基本理念を実現するためのまちづくりの方向性を示すものとして、以下の８つの基本目標を設定します。

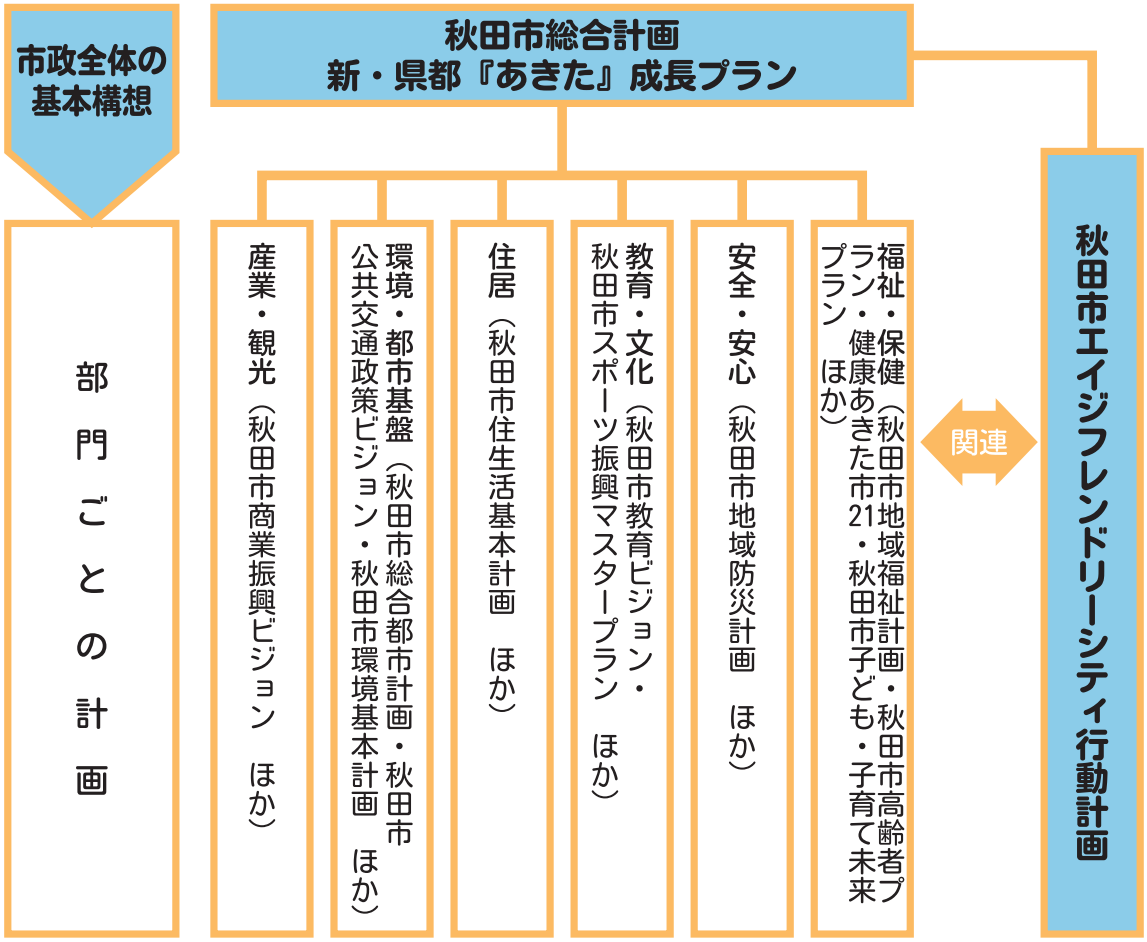
エイジフレンドリーシティの実現に向けた８つの基本目標

基本目標１　安全・安心で誰もが快適に過ごせる屋外環境の整備
基本目標２　交通機関の利便性の向上
基本目標３　安心して快適に住み続けられる住環境の整備
基本目標４　生涯を通じた生きがいづくりや社会参加の促進

基本目標５　あらゆる世代がお互いを認め合う地域社会づくり
基本目標６　高齢者の就業や市民参加の機会創出
基本目標７　高齢者の情報環境の整備
基本目標８　多様な生活支援サービスを利用できる地域づくり

2 行動計画の位置づけ

本計画は、「秋田市総合計画」のもと、「秋田市地域福祉計画」および「秋田市高齢者プラン」など各部門ごとの個別計画と整合性を図るものとします。



「秋田市総合計画」では、本市の成長を牽引するために今後成長させることが必要な分野に対して一体的かつ集中的に経営資源を投入する、５つの成長戦略を設定しています。その一つとして、本計画の基本理念「心豊かで活力ある健康長寿社会」と取組の方向性を同じとする、「いきいきと暮らせる健康長寿社会づくり」が位置づけられ、実現を図るため５つの重点プログラムが設定されています。

この５つの重点プログラムは、本計画においても、全体を先導していくものとして実施します。

【戦略５　いきいきと暮らせる健康長寿社会づくり】

○　戦略が目指すもの

・市民の幸せの基盤となる健康・長寿の実現

・高齢者が輝ける地域社会の実現

○　重点プログラムと主な事業

Ⅰ　生涯を通じた健康づくりと生きがいづくりの推進

・歩くべあきた高齢者健康づくり事業、ねんりんピック*6秋田２０１７開催準備経費

Ⅱ　高齢者の多様な能力の活用

・エイジフレンドリーシティ推進事業、エイジフレンドリーシティ普及啓発事業、高齢者コミュニティ活動創出・支援事業、傾聴ボランティア養成事業、介護支援ボランティア制度運営経費、高年齢者就業機会確保事業費補助金

Ⅲ　バリアフリー化の推進

・都市公園バリアフリー化事業、エイジフレンドリーパートナー*7づくり推進事業、高齢者生活支援情報提供事業

Ⅳ　高齢者の移動手段の確保

・高齢者コインバス事業、バス交通総合改善事業

Ⅴ　多様な生活支援サービスが利用できる地域づくりの推進

・地域包括支援センター運営事業、認知症対策推進事業、高齢者生活支援体制整備事業

３　行動計画の計画期間

本計画の計画期間は、２０１７（平成２９）年４月から２０２２（平成３４）年３月までの５年間とします。計画期間の最終年である２０２１年（平成３３年度）には各施策の目標達成状況の検証を行い、社会情勢の変化等に応じて必要な見直しなどを行い、次期行動計画の策定につなげていきます。

第３章　行動計画の推進体制と進行管理

1　行動計画の推進体制

本計画の目標を達成するためには、公共交通機関の整備、居住環境の整備、社会参加や雇用機会の創出など、広範な分野の課題に対応する必要があることから、これまで以上に全庁で連携を図り、横断的かつ継続的な取組を進めていくこととします。

また、行政だけでなく、市民、エイジフレンドリーパートナーを含む民間企業・団体が、それぞれ主体的に取り組んでいくとともに、行政、市民、民間の三者がそれぞれの強みを活かしながら連携し、活動を展開していくよう努めます。

（1）有識者等による幅広い立場からの提言・助言【秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会】

行動計画の円滑な推進を図るために設置された秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会から、本計画に基づく各施策の実行・推進について、広い見識を持って提言や助言を受け、行政、市民、民間の三者がそれぞれの役割を発揮しながら着実に推進していきます。

（2）庁内の連携・調整による全庁的な推進【（仮称）エイジフレンドリーシティ庁内会議】

エイジフレンドリーシティの実現には、公共交通機関の整備、居住環境の整備、社会参加や雇用機会の創出など、広範な分野の課題に対応するため、全庁で横断的にかつ継続的な取組が必要です。相互に関連する課題について、関係課所室が連携し協力しながら取組を推進できるよう、庁内組織「（仮称）エイジフレンドリーシティ庁内会議」を設置します。

（3）各主体の取組促進

市民や民間企業・団体など、地域全体の施策に対する理解と積極的な参画が必要であるため、市は本計画の目的や取組内容等について、広く周知を図り、その趣旨の徹底に努めます。そして、意見交換会等の実施を通して各主体が担うことができる役割等について検討を行い、新たな協働の形が形成されることを目指します。なお、市民や民間企業・団体が中心となって推進する取組については、主体性を損なうことなく、自立した取組ができるよう、行政の役割として支援していきます。

2　行動計画の進行管理

計画の実効性を高めていくためには、行政、市民、民間企業・団体が様々な視点から評価を行いながら、計画の更なる改善に向けた段階的・継続的な取組が必要となります。本

計画では、計画策定（Ｐｌａｎ）後の実施（Ｄｏ）を受けて、その効果を評価（Ｃｈｅｃｋ）し、必要に応じて見直す（Ａｃｔｉｏｎ）といった『ＰＤＣＡサイクル』により、計画の管理と質の確保を図ることとします。

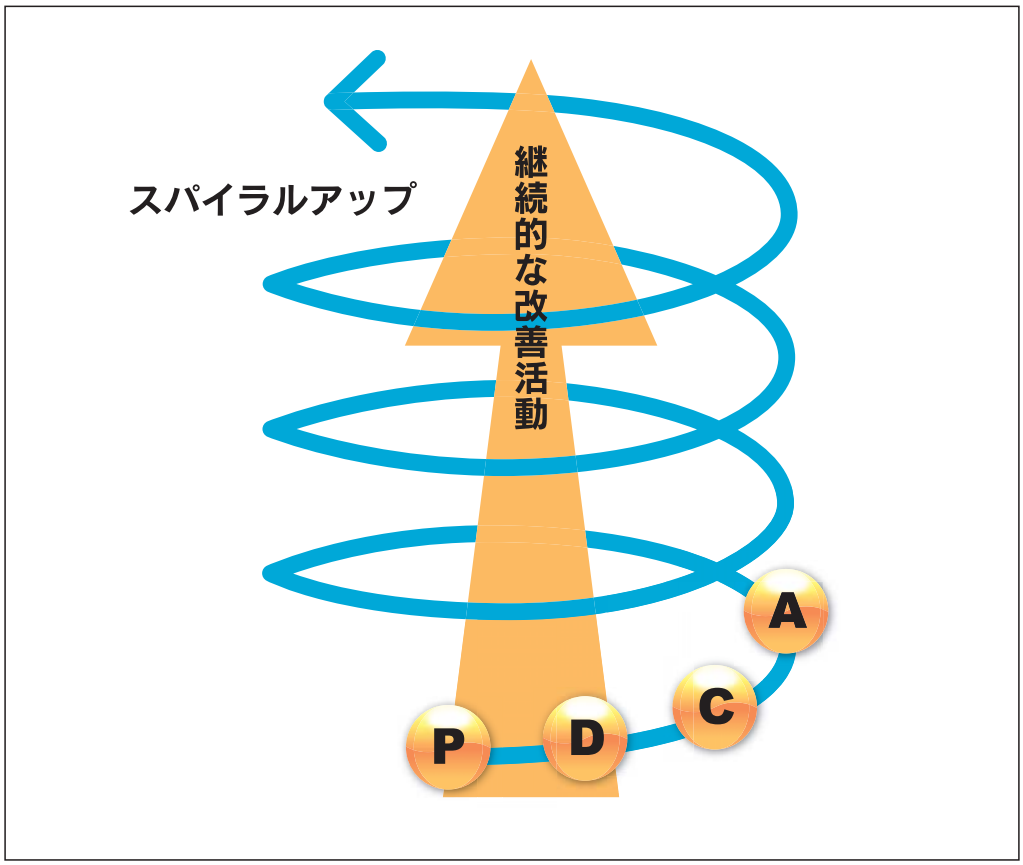
（１）エイジフレンドリー指標の活用

本市が設定した「秋田市エイジフレンドリー指標」（Ｐ.２１）を活用し、毎年度の進行管理において、施策の進捗状況や目標の達成状況を点検・評価します。さらに適切な評価につながるよう、本行動計画と指標との整合性を図り、必要に応じて指標の見直しを行うなど、指標の充実に努めます。

（２）計画の進捗状況の点検・公表

本計画の実行性を客観的に担保するため、施策の実施状況等を定期的に点検・自己評価し、その結果を秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会に報告し、達成状況の評価を行います。進捗状況の点検・評価結果は、広報紙やホームページ等の様々な媒体を通じて広く情報を提供するとともに、適宜、アンケート調査等を実施し、市民や民間企業・団体等からの意見聴取に努めます。なお、聴取した意見は、成果や課題の把握・分析に活用し、次年度の取組への反映、必要に応じた計画の見直しを行います。

図６　ＰＤＣＡサイクル（イメージ図）



第４章　４つの領域における取組と重点施策

1　領域の設定について

本計画では、基本理念および基本目標を達成するために、４つの領域を設定し、それぞれの領域において、庁内の関係各課が問題意識および情報を共有して連携することによって、より良い効果をもたらすという視点から取り組むべき施策を「領域別施策」と設定し、横断的な取組を推進していきます。

４つの領域

領域Ⅰ　空間環境基盤
領域Ⅱ　社会生活基盤
領域Ⅲ　産業・経済基盤
領域Ⅳ　教育・文化基盤

領域Ⅰ　空間環境基盤

自然環境や都市基盤、住宅、コミュニティ施設など、市民の生活の器となる物的・空間的な基盤です。

領域Ⅱ　社会生活基盤

地域社会の交流と支えあい、ケアや福祉、地域におけるコミュニティ活動等に関わる制度や仕組みといった社会的な基盤です。

領域Ⅲ　産業・経済基盤

秋田市の経済をけん引してきた多くの産業、秋田の強みである「地域資源」を活かした産業といった経済的基盤です。

領域Ⅳ　教育・文化基盤

人間らしく生きていくために必要な心とからだの支えとなる文化的基盤と、文化を伝達・継承し発展させるための教育基盤です。

2　領域Ⅰ　空間環境基盤

（1）現状と課題

・本市では、人口減少が進行する中においても、市街地の面積が広がるなど、低密度化が進んでおり、この状態がさらに進んだ場合、公共施設や道路、上下水道など都

市基盤施設の維持管理にかかる負担の増大とともに、公共サービスの低下が危惧されます。

・鉄道やバス、タクシーなどの公共交通については利用者が減少する一方で、自動車の利用率が高まり車社会が進展する傾向にあります。しかし、自動車に過度に依存する傾向が続くと、高齢化が進展する中、自動車を利用できなくなった場合に外出できないといった懸念も生じます。誰もが安心して暮らすことができるよう、地域における移動手段の確保に向けた取組が求められます。

・地域の防災活動の要ともなる自主防災組織は、少子高齢化の進行やコミュニティ意識の希薄化などへの対応が必要となっており、屋根の雪下ろしや間口除雪など、雪処理の担い手不足も課題となっています。

（2）方向性

安心して外出できる環境を整備し、人と人、人と地域のふれあいが深まるまちづくりを進めます。

○　領域別施策１　中心市街地と６つの地域中心を核としたコンパクトなまちづくり

【具体的な取組・想定される取組】

・中心市街地の活性化
・地域のにぎわい拠点の充実
・まちのにぎわいづくりや既存の文化施設と連動した「芸術文化ゾーン」の形成
・（仮称）秋田市新屋ガラス工房、（仮称）土崎みなと歴史伝承館をまちづくり拠点施設とした取組

○　領域別施策２　地域の移動手段の確保

【具体的な取組・想定される取組】

・高齢者コインバス事業の対象年齢拡大
・各市民サービスセンター等の地域中心や鉄道駅をはじめとする交通結節点を結ぶ公共交通ネットワークの強化
・様々な移動手段の事例研究、検討

○　領域別施策３　安全・安心で、雪に強いまちづくり

【具体的な取組・想定される取組】

・高齢者の交通事故防止
・雪対策における市民協働の推進や高齢者支援策の充実

3 領域Ⅱ　社会生活基盤

（1）現状と課題

・ライフスタイルや価値観の多様化、少子高齢化の進行などにより、家族のコミュニケーションが不足したり、地域における住民同士の交流や日常的な協力などのつながりが希薄になっています。

・地域特性を活かした魅力あるまちづくりを進めていくためには、地域を知り、地域に愛着を持つ住民がまちづくりに主体的に関わっていくことが必要です。行政やサービス事業者、ボランティア団体等と連携して共に支えあう地域社会を形成する必要があります。

・人口減少・少子高齢化の進展に伴い、家庭の扶養能力(育児・介護機能）や、地域の相互扶助力が低下しており、市民の多様な福祉ニーズがさらに増加するほか、多様化していくことが見込まれます。そのため、これらのニーズに対応したサービスの提供や要援護者に対する地域での見守りや支えあい、障がい者が地域社会の中で自立して生活できる支援体制等の充実が求められます。

（2）方向性

活力ある地域コミュニティづくりに必要な人材、拠点、交流の機会を創出します。

○　領域別施策１　住民主体のコミュニティ活動の創出と推進

【具体的な取組・想定される取組】

- **市民活動の促進**
- **市民による地域づくりの推進**
- **市民協働実践活動のサポート**
- **地域おこし協力隊*8と連携した活動**

○　領域別施策２　高齢者の多様な能力を活用した地域における支えあいの推進

【具体的な取組・想定される取組】

- **高齢者のコミュニティ活動の創出・支援**
- **社会参加、ボランティア、就業など高齢者の意欲や能力を活かす支援体制づくり**

○　領域別施策３　多様な生活支援サービスを利用できる地域づくりの推進

【具体的な取組・想定される取組】

- **地域包括ケアシステムの構築**
- **住民主体、NPO、民間企業等多様な主体によるサービス提供**
- **認知症対策事業の推進、強化**

4 領域Ⅲ　産業・経済基盤

（1）現状と課題

・少子高齢化や若年者の転出、産業の基盤となる熟練技術者の後継者不足など労働力人口は減少していることから、人口減少社会に対応した労働力の確保が急務となっています。

・高齢者や女性が活躍できる就業機会の拡大、障がい者の雇用促進などにより、多様な人材が能力を十分に発揮できる環境づくりが必要となっています。

・農林水産業では、従事者の高齢化が急速に進んできており、担い手不足が深刻です。こうした中、農業においては、新規就農者数が増加傾向にあるなど、明るい兆しも見られる一方、高齢化等により離農者も増加しており、意欲と意識の高い担い手の育成が急務となっています。

（2）方向性

知識や経験を活かして多様な形で活躍できる「生涯現役型社会」の実現を目指し、一人ひとりの活躍を総合的に支援する体制づくりに取り組みます。

○　領域別施策１　超高齢社会をチャンスと捉えた新たなビジネスの創出・支援

【具体的な取組・想定される取組】

・エイジフレンドリーパートナーの拡大

・シニアビジネスのニーズ把握

○　領域別施策２　高齢者の活躍を総合的に支援する体制構築

【具体的な取組・想定される取組】

・社会参加、ボランティア、就業など高齢者の意欲や能力を活かす支援体制づくり（再掲）

○　領域別施策３　地域課題解決につながるコミュニティビジネス*9の推進

【具体的な取組・想定される取組】

・地域資源（人、自然、文化、伝統行事など）の把握とその活用の検討

・コミュニティビジネスの事例研究、セミナー等の開催

5 領域Ⅳ　教育・文化基盤

（1）現状と課題

・市民の健康志向の高まりや余暇時間の増加に伴い、豊かなスポーツライフを実現したいという意識が高まっており、スポーツ振興や環境整備に対する市民ニーズが高度化・多様化してきています。

・生涯を通じて学びたいという市民の学習ニーズの多様化や、その学習成果をボランティア活動などの形で社会に活かしたいという意欲が高まっています。

・長い歴史の中で育まれた貴重な文化財が数多く残っており、地域資源としての重要性が高まる一方で、担い手不足などの問題を抱えており、保存とともに継承を進める必要があります。

（2）方向性

一人ひとりが自己実現できる環境づくりを進め、「これからも住み続けたいと思えるまち」の実現を目指します。

○　領域別施策１　生涯を通じた文化・スポーツ活動の推進

【具体的な取組・想定される取組】

・ねんりんピック秋田２０１７の開催

・健康づくり運動の推進

・（仮称）秋田芸術祭の検討

・（仮称）秋田市新屋ガラス工房、（仮称）土崎みなと歴史伝承館をまちづくり拠点施設とした取組（再掲）

○　領域別施策２　多世代が交流し、支えあう地域づくり

【具体的な取組・想定される取組】

・高齢者のコミュニティ活動の創出・支援（再掲）

○　領域別施策３　秋田に誇りと愛着を持つひとづくり

【具体的な取組・想定される取組】

・シビックプライド（civic pride）[*10]の醸成

・エイジフレンドリーシティの普及啓発

6 重点施策

地域社会全体で目標・理念を共有しながら、行政、市民、民間の協働による地域課題の解決を推進するため、三者が連携して取り組むことができ、今後重点的に実施するべき施策を「重点施策」としてまとめ、本計画期間内において着実な成果向上を目指していきます。

重点施策１　産学官民一体で地域課題解決に取り組む“共創”体制づくり

人口減少と少子高齢化が進行する中、多岐にわたる地域課題解決に向けて、民間企業、市民、ＮＰＯ、大学、行政の異なる主体が、知恵や力を合わせ、協働で取り組み、地域の未来を切り開き、創り出していく必要があります。高齢者の活躍・生きがいづくり、地域コミュニティの再構築、シニアビジネスの創出等に向けて、産学官民一体の共創体制の構築を図ります。

重点施策２　地域資源を活用した多様な住民主体のコミュニティ活動の推進

「団塊の世代」が６５歳に到達し、地域には元気な高齢者が増えていますが、これまでの経験や知識を活かして地域デビューしたいと考えても、地域に活躍の場を求める高齢者のニーズを満たす活動場所は、まだ十分とは言えません。これまで地域との関わりが薄かった高齢者をはじめとする地域住民が、地域の強みや課題を発見・共有し、地域資源を活かしたコミュニティ活動を展開し支えあうことができるよう、地域におけるコミュニティ活動の推進を図ります。

重点施策３　経験や能力を発揮し、未来を支える担い手の育成と人材力の強化

人口減少社会では、その地域のその特性を踏まえて自ら考え、地域づくりに取り組まなければなりません。地域課題の解決や地域の活性化に向けた議論、取組の主体は、地域に関わる一人ひとりです。このため、各地域において地域づくりを担う人材を確保することが不可欠であり、そのための人づくりが重要です。人口減少・少子高齢化、人口の地域的偏在が進み、また生産年齢人口が減少していく中では、地域づくりを担う人材を戦略的に育成することが重要です。まちづくりを他人事とは思わず、自分ごととして考え行動する、協働のまちづくりの担い手を育成します。また、年齢や性別に関わらず意欲、個性や能力に応じて活躍でき、個人の可能性が最大限発揮されるよう、一人ひとりの人材力の強化に努めます。

第２次秋田市エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）行動計画施策体系図

【基本理念】

基本理念　心豊かで活力ある健康長寿社会

【基本目標】

- 目標１　安全・安心で誰もが快適に過ごせる屋外環境の整備
- 目標２　交通機関の利便性の向上
- 目標３　安心して快適に住み続けられる住環境の整備
- 目標４　生涯を通じた生きがいづくりや社会参加の促進
- 目標５　あらゆる世代がお互いを認め合う地域社会づくり
- 目標６　高齢者の就業や市民参加の機会創出
- 目標７　高齢者の情報環境の整備
- 目標８　多様な生活支援サービスを利用できる地域づくり

【４つの領域】

領域Ⅰ　空間環境基盤

- 領域別施策１　中心市街地と６つの地域中心を核としたコンパクトなまちづくり
- 領域別施策２　地域の移動手段の確保
- 領域別施策３　安全・安心で、雪に強いまちづくり

領域Ⅱ　社会生活基盤

- 領域別施策１　住民主体のコミュニティ活動の創出と推進
- 領域別施策２　高齢者の多様な能力を活用した地域における支えあいの推進
- 領域別施策３　多様な生活支援サービスを利用できる地域づくりの推進

領域Ⅲ　産業・経済基盤

- 領域別施策１　超高齢社会をチャンスと捉えた新たなビジネスの創出・支援
- 領域別施策２　高齢者の活躍を総合的に支援する体制構築
- 領域別施策３　地域課題解決につながるコミュニティビジネスの推進

領域Ⅳ　教育・文化基盤

- 領域別施策１　生涯を通じた文化・スポーツ活動の推進
- 領域別施策２　多世代が交流し、支えあう地域づくり
- 領域別施策３　秋田に誇りと愛着を持つひとづくり

【重点施策】

- **重点施策１**　産学官民一体で地域課題解決に取り組む“共創”体制づくり
- **重点施策２**　地域資源を活用した多様な住民主体のコミュニティ活動の推進
- **重点施策３**　経験や能力を発揮し、未来を支える担い手の育成と人材力の強化

基本目標と領域別施策の関連性

領域／領域別施策 ＼ WHO 8つのトピック／基本目標		屋外スペースと建物	交通機関	住居	社会参加	尊敬と社会的包摂	市民参加と雇用	コミュニケーションと情報	地域社会の支援と保健サービス
		安全・安心で誰もが快適に過ごせる屋外環境の整備	交通機関の利便性の向上	安心して快適に住み続けられる住環境の整備	生涯を通じた生きがいづくりや社会参加の促進	あらゆる世代がお互いを認め合う地域社会づくり	高齢者の就業や市民参加の機会創出	高齢者の情報環境の整備	多様な生活支援サービスを利用できる地域づくり
領域Ⅰ 空間環境基盤	中心市街地と6つの地域中心を核としたコンパクトなまちづくり	○	○	○				○	○
	地域の移動手段の確保	○	○	○	○		○		
	安全・安心で、雪に強いまちづくり	○	○	○			○	○	○
領域Ⅱ 社会生活基盤	住民主体のコミュニティ活動の創出と推進				○		○		○
	高齢者の多様な能力を活用した地域における支えあいの推進				○	○	○		○
	多様な生活支援サービスを利用できる地域づくりの推進				○	○	○		○
領域Ⅲ 産業・経済基盤	超高齢社会をチャンスと捉えた新たなビジネスの創出・支援	○	○	○	○		○	○	
	高齢者の活躍を総合的に支援する体制構築				○		○		
	地域課題解決につながるコミュニティビジネスの推進	○	○	○	○		○		○
領域Ⅳ 教育・文化基盤	生涯を通じた文化・スポーツ活動の推進				○				
	多世代が交流し、支えあう地域づくり				○	○	○	○	○
	秋田に誇りと愛着を持つひとづくり					○			

参考資料

1　脚注一覧
2　秋田市エイジフレンドリー指標体系図
3　秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会設置要綱
4　秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会委員名簿
5　策定までの経緯
6　若手職員意見交換会・市民の集い・エイジフレンドリーパートナーの集い
　　意見の取りまとめ

1　脚注一覧

＊１　**ＷＨＯエイジフレンドリーシティグローバルネットワーク**：エイジフレンドリーシティを広め、各都市との連携を図ることを目的に世界保健機関（ＷＨＯ）が２０１０（平成２２）年に設立したネットワーク。

＊２　**共助**：近隣の方々、また市民が豊かな地域づくりに協力・協働すること。

＊３　**超高齢社会**：一般に、高齢化率（全人口に対する６５歳以上の人口比）が２１％を越えた社会を超高齢社会と呼んでいる。７％を超えた社会を「高齢化社会」、１４％を超えた社会は「高齢社会」と呼んでいる。

＊４　**パブリックコメント**：市が計画や条例などを策定したり変更したりするときに、その内容を案の段階で公表し、案に対する意見や提案、要望を広く市民から募集する手続きのこと。

＊５　**高齢化率**：全人口に対する６５歳以上の人口比。

＊６　**ねんりんピック**：「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は、６０歳以上の方を中心として、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることができるスポーツと文化の祭典。厚生省創立５０周年を記念して、１９８８（昭和６３）年に兵庫県で第１回大会が開催されて以来、毎年開催されており、２０１７（平成２９）年には、第３０回大会が秋田県で開催される。

＊７　**エイジフレンドリーパートナー**：秋田市と連携してエイジフレンドリーシティの実現に取り組んでいこうとする企業・事業者等をエイジフレンドリーパートナーとして登録し、民間サイドからエイジフレンドリーシティ実現に向けた取組を推進しようとする制度。

＊８　**地域おこし協力隊**：人口減少や高齢化などの進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることが、地域力の維持・強化に有効な取組であるとして、総務省が平成２１年度から制度化している。秋田市では、平成２９年度から実施している。

＊９　**コミュニティビジネス**：高齢者介護、子育て支援、環境保全、生涯学習、地域の活性化などに関する地域の課題を、地域資源を活かしながら「ビジネス」の手法で解決していこうとする取組。

＊10　**シビックプライド（civic pride）**：自分の住んでいる、働いている街に対して「誇り」や「愛着」を持って、自らも街を形成している１人であるという認識を持つこと。

2 秋田市エイジフレンドリー指標体系図

秋田市エイジフレンドリー指標（平成２７年１０月設定 平成２９年１月改訂）は、第１次行動計画の施策体系に対応した指標となっています。

平成２９年１月２７日改訂

秋田市エイジフレンドリー指標体系図

基本理念	基幹指標（主観的指標）	基本方針	意識指標（主観的指標）	行動指標（客観的指標）	
高齢になっても地域社会で活動、活躍することができ、いきいきと過ごすことができる社会	自分らしく暮らすことができていると感じている高齢者の割合	1 安心安全で誰もが集える屋外スペースと建物、施設の整備を進めます。	近所を安心して外出できると感じている高齢者の割合	１－１	秋田市公共施設のバリアフリー化率
				１－２	高齢者の交通事故発生状況
				１－３	特殊詐欺被害件数
		2 交通機関の利便性の向上をはかります。	バスや電車などの交通機関は便利で利用しやすいと思う高齢者の割合	２－１	コインバス資格証明書交付率
				２－２	ノンステップバス、低床バス導入状況
				２－３	ユニバーサルデザインタクシー・福祉タクシー導入状況
	あらゆる世代にとって住みよいまちであると感じている人の割合	3 高齢者の住環境を整備します。	現在の住環境に満足している高齢者の割合	３－１	高齢者世帯のうち高齢者等の設備（バリアフリー化）の設置住宅の割合
				３－２	住宅リフォーム助成件数、年間リフォーム実施比率
				３－３	介護保険制度における住宅改修件数
				３－４	サービス付き高齢者向け住宅戸数
		4 高齢者の社会参加をはかります。	余暇の過ごし方に満足している高齢者の割合	４－１	過去一年以内に趣味・スポーツ・文化・生涯学習などの社会活動に参加した高齢者の割合
				４－２	地域活動（地域での自治活動や市民活動）に参加している人の割合
				４－３	大学で社会人向けに開催されている講座数
				４－４	１日２０分以上の運動を週１回以上実施している人の割合
				４－５	高齢者が地域の身近な場所で集うことができる場の数
				４－６	高齢者がスポーツ活動に参加している割合
	地域とのつながりがあると感じている高齢者の割合	5 あらゆる世代がお互いを認め合う地域と社会をつくります。	年齢を重ねることを肯定的に捉える人の割合	５－１	高齢者や障がい者との交流や、福祉についての理解を授業に取り入れた小･中学校の割合
				５－２	高齢者、高齢社会に配慮した取組を推進する民間事業者（エイジフレンドリーパートナー）数と取組件数
		6 高齢者の就業や市民参加の機会を増やします。	ボランティア活動や働くことにやりがいを感じている高齢者の割合	６－１	日常的にボランティア活動を行っている高齢者の割合と実人数
				６－２	希望者全員が６５歳を過ぎても働ける企業の割合
				６－３	６０歳以上のうちシルバー人材センターへ会員登録している実人数と割合
				６－４	地域における支え合いのしくみづくりの先導的取組件数
				６－５	地域における主体的な市民活動の取組件数
	意欲的に社会と関わり、さまざまな活動に参加している高齢者の割合	7 高齢者の情報環境を整備します。	地域において、福祉相談やサービスに関する情報が入手しやすいと回答した高齢者の割合	７－１	高齢者の暮らしに役立つサービスの情報提供社数
				７－２	広報あきたへの高齢者福祉サービス情報掲載件数
				７－３	秋田市高齢者関連ホームページアクセス件数
				７－４	民生委員訪問件数・相談対応件数
				７－５	地域包括支援センターでの相談件数
		8 保健、福祉、医療サービスを充実させ、地域社会の支援体制を整えます。	医療、福祉サービスの充実に満足している高齢者の割合	８－１	秋田市の健康寿命と平均寿命
				８－２	６５歳以上のうち要介護認定を受けている人の割合
				８－３	認知症サポーター養成講座開催回数、受講者数
				８－４	高齢者の権利擁護対応件数

3 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会設置要綱

秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会設置要綱

平成２６年５月１５日
市　長　決　裁

（設置）

第１条　秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画（以下「行動計画」という。）の円滑な推進を図るため、秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会（以下「推進委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　推進委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

(1) 行動計画に係る施策の進行管理に関すること。

(2) 行動計画に係る施策の評価等に関すること。

(3) 評価等を踏まえた新たな施策の提案に関すること。

(4) 行動計画の変更に関すること。

(5) 前各号に掲げるもののほか、行動計画の円滑な推進のため必要な事項に関すること。

（組織）

第３条　推進委員会は、委員１３人以内をもって組織する。

２　推進委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1) 公募による市民

(2) 市民団体および関係団体

(3) 学識経験者および有識者

(4) 秋田市福祉保健部次長兼連携推進官

(5) 前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

（任期）

第４条　委員の任期は、３年とし、再任を妨げない。ただし、この要綱の施行の日以後の最初の任期については平成２９年３月３１日までとする。

（委員長および副委員長）

第５条　推進委員会に、委員長および副委員長を置く。

２　委員長は、委員の中から互選し、副委員長は、委員長が指名する。

３　委員長は、推進委員会の会務を総理する。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長が欠けたとき、又は委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（会議）

第６条　推進委員会は、市長が招集し、委員長が議長となる。

（事務局）

第７条　推進委員会の庶務を処理するため、秋田市福祉保健部長寿福祉課に事務局を置く。

（委任）

第８条　この要綱に定めるもののほか、推進委員会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成２６年５月１５日から施行する。

4 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会委員名簿

【敬称略】

	氏名（ふりがな）	所属等
1	淡路（あわじ）　孝次（たかつぐ）	秋田中央建築士会理事 （株）クリエイテブライフ代表取締役
2	石沢（いしざわ）　真貴（まき）	秋田大学教育文化学部地域文化学科教授
3	一ノ関（いちのせき）　勝義（かつよし）	秋田商工会議所商業部会副部会長 （株）一ノ関時計店代表取締役
4	川田（かわた）　直政（なおまさ）	秋田市身体障害者協会会長
5	佐藤（さとう）　清一（せいいち）	公募委員
6	重川（しげかわ）　敬三（けいぞう）	日本赤十字秋田看護大学講師 健康あきた２１推進会議委員
7	菅生（すごう）　紀光（のりみつ）	エイジフレンドリーあきた市民の会会員
8	高杉（たかすぎ）　静子（しずこ）	ＮＰＯ法人あきたシニアクラブ理事長
9	田口（たぐち）　悟（さとる）	社会福祉法人秋田市社会福祉協議会常務理事兼事務局長
１０	日野（ひの）　智（さとる）	秋田大学大学院理工学研究科システムデザイン工学専攻准教授 秋田市地域公共交通協議会委員
１１	水木（みずき）　千路子（ちじこ）	公募委員
１２	山内（やまうち）　貴博（たかひろ）	秋田公立美術大学景観デザイン専攻准教授
１３	渡部（わたなべ）　厚子（あつこ）	秋田市福祉保健部次長兼健康長寿連携推進官

平成２９年５月１日現在

5 策定までの経緯

平成２８年度	８月	市の超高齢社会に関する課題について整理
		全庁各課の取組や事業について、さらなる高齢化の進行による影響があるものについて調査
	１０月	第８回秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会
		第１回若手職員意見交換会
	１１月	市民の集い（市内７か所で実施）
		エイジフレンドリーパートナーの集い
	１２月	第２回若手職員意見交換会
		第９回秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会
	１月	第10回秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会
		市民の集い～みんなで秋田の将来を考えよう～
	２月	パブリックコメント実施
	３月	第11回秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会
		第２次秋田市エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）行動計画策定

6 若手職員意見交換会・市民の集い・エイジフレンドリーパートナーの集い 意見の取りまとめ

若手職員意見交換会

（1）概要

「秋田市の超高齢社会に関する課題」について共有し、部局や課を超えた連携によって、より良い効果をもたらすという長期的な視点で取り組むべきことについて意見を集約するため、「庁内若手職員による意見交換会」を計２回実施した。

（2）参加職員の構成

総務部、企画財政部、福祉保健部、保健所、産業振興部、建設部、都市整備部、教育委員会など各部局の職員

（3）内容

秋田市の１０年後、２０年後を見据えつつ、「空間環境基盤」、「社会生活基盤」、「産業・経済基盤」、「教育・文化基盤」の４つの領域について、取組の方向性、理想像、理想像の実現のための具体的取組のアイディアなどを分野横断で話し合った。

市民の集い・エイジフレンドリーパートナーの集い

（1）開催概要

行動計画策定に市民と民間事業者（エイジフレンドリーパートナー）からの意見を反映させるため、「市民の集い」と「エイジフレンドリーパートナーの集い」を以下のとおり実施した。

（2）開催回数

市民の集いは中央、西部、北部、河辺、雄和、南部、東部市民サービスセンターとにぎわい交流館ＡＵ（あう）において計８回実施した。エイジフレンドリーパートナーの集いは中央市民サービスセンターにおいて計１回実施した。

（3）内容

秋田市のエイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の取組について概要を説明後、ワールド・カフェ方式で参加者同士の意見交換を行った。意見交換のテーマは以下のとおりである。

ア　地域の気になること（課題）

イ　地域の大切にしたいこと（資源）

ウ　地域で、自分らしく暮らすために必要なこと

エ　地域をさらに明るく・元気にするために、自分ができること、挑戦してみたいこと

オ　エイジフレンドリーパートナーになって変わったこと、変わらなかったこと

カ　超高齢社会に直面して企業として課題と考えていること、可能性と考えていること

キ　秋田のビジネスを元気にするために必要なこと（市民の協力、行政の制度、民間の連携など）

ワールド・カフェ方式について

ワールド・カフェとは、“カフェ”にいるようなリラックスした雰囲気のなか、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行い、ときどき他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら話し合いを発展させていくこと。

意見の活用について

若手職員意見交換会、市民の集い、エイジフレンドリーパートナーの集いにおいて参加者から出された様々な意見から、超高齢社会における課題や論点を整理し、特に重点的に取り組むべき課題の設定と、領域別施策や重点施策の方向性に反映させた。

今後、行動計画期間内における庁内各課による横断的な取組や、行政、市民、民間の三者連携による具体的な取組等について検討するにあたり、各集いで出された様々な意見を参考とし、活用していくこととする。

若手職員意見交換会

市民の集い～みんなで秋田の将来を考えよう～

若手職員意見交換会・市民の集い・エイジフレンドリーパー

【領域Ⅰ】空間環境基盤

領域別施策１　中心市街地と６つの地域中心を核としたコンパクトなまちづくり
領域別施策２　地域の移動手段の確保
領域別施策３　安全・安心で、雪に強いまちづくり

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理　　想	課
【意見交換会や集いで出された意見で、頻度が高く重要と思われるキーワード】 ・公共交通機関 ・公共施設 ・コンパクトシティ* ・一か所への機能集約 ・CCRC*構想 ・移動手段の確保 ・安全、安心 ・除雪 ・中心市街地 ・コインバス ・空き家 【論点】 秋田らしいコンパクトシティ 【取組の方向性として考えること】 ・安全・安心に配慮した土地利用・社会基盤整備 ・社会基盤・公共施設の適切なマネジメント *コンパクトシティ 市街地の拡大を抑制し、中心部に住宅や公共施設、商業施設など様々な機能を集約して、できるだけマイカーに頼らず、徒歩や自転車で移動できる程度のコンパクトな規模に収める都市形態。国では多くの地方自治体が共有できる具体像として、生活拠点が複数存在し、各地とこれらの拠点が公共交通ネットワークで結ばれた「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を提唱 *CCRC 「Continuing Care Retirement Community」の略。直訳すると「継続的なケア付きの高齢者たちの共同体」。仕事をリタイアした人が第二の人生を健康的に楽しむ街として米国から生まれた概念。元気なうちに地方に移住し、必要な時に医療と介護のケアを受けて住み続けることができる場所を指す	地域コミュニティの再構築	・もっと外出できる機会（環境）があること ・中心市街地や各市民サービスセンターを核とする各地域に活気があること	・中心市街地や各地域の活 ・秋田市のメイン通りはど
		・空き家、空き地を活用した居場所が身近にあること	・空き家、空き地の増加 ・施設入居、死亡により空スがある） ・空き家問題は簡単ではな
	ビジネスの新たな展開	・地域資源を有効活用し、次世代に継承していくこと	・地域にある資源の活用不 ・セリオンをもっと活性化 ・港御蔵などの建物をすぐ
	ハード面の解決	・秋田らしいコンパクトシティについて、行政と市民が共通認識を持っていること ・中心市街地と各地域をつないだ多極分散型コンパクトシティの推進 ・歩きやすいまちづくり	・コンパクトシティについ ・秋田市のメイン通りはど
		・各世代に伝わりやすい情報発信、タイムリーな情報発信	・中心市街地のイベント等 ・高齢者に情報が行き渡っ
		・アクセスしやすい公共交通機関であること ・生活に必要な施設、エリアへのアクセスが良いこと ・バリアフリー化の実現	・近くに病院や診療所がな ・コミュニティセンターが ・近くに本屋がない ・駅前の拡張を行ったが効
		・車を使わなくても、普段の生活に困らない暮らしができること ・車を所有している人もしていない人も、運転できない人も不自由ではないまち ・利用しやすい公共交通機関（バス）	・秋田駅周辺、中心市街地 ・路線バスの減少（コインバ ・コインバスは発想が良い、ばもっと良い ・コインバスは本数が足り ・バスが通っていないとこ ・バスは一時間に一本あれば ・福祉バスがほしい ・自動車利用を減らし、自 ・高齢ドライバーに自覚が ・免許更新時の判定の厳しさ ・地域性から自家用車が不 ・好意で、高齢者を自家用できない ・自家用車が使えないと外 ・バス停まで遠い
		・高齢者等が安心して、安全に移動できる環境づくり ・畑・庭いじりを気軽に行える場の創出・整備 ・安心して外出できる屋外環境 ・雪に強いまちづくりの推進	・街灯が少なく、夜道が暗も原因） ・道路が狭い ・散歩中の休憩スペースが ・雪のため、冬期間の移動 ・昔は空き地一面に花が咲た ・堤防沿いに花木が植えらがまかれて、全部枯れて ・小学生の通学が大変（廃 ・冬は雪が多く大変 ・防災について、危機感が ・街中にもっとベンチがほ ・高齢者の除雪が難儀

トナーの集い　意見取りまとめ

黒：若手職員意見交換会
茶：市民の集い
青：パートナーの集い

題	理想を実現させるための具体的な方法（例示）
性化が必要 こなのかわからない	・若者や学生を対象に、空き店舗への入居やリノベーション*に対して補助金を出す（中心市街地） ・もっと遊びたい、外に出たいというニーズに応えるために、イベントを実施したり、集まる拠点を作る ・昔の金座街を復活させる *リノベーション 既存の建物に大規模な改修工事を行うことで用途や機能を変更して性能向上させ、価値を高めること
き家が増えている（住所はあるが不在のケー い	・廃校や空き家を活用したサロン・憩いの場づくり（借り上げ、修繕等による場の整備）（山村地域は幹線道路沿いの空き家が利用しやすい） ・空き地、空き農地は「家庭菜園」、「〇〇農園」として活用する ・空き地に自由に花を植えられるようにする等、憩いの場づくりを進める ・空き家をカルチャースクールの場として提供する
足 する必要がある に壊してしまい、大切にしてこなかった	・地域の歴史に詳しい高齢者を活用し、秋田城、土崎地区の空襲跡地など、次世代に「残す」取組を行う ・老人クラブで保有する花壇を介した多世代交流を図る ・セリオン内に土崎地区の祭り（土崎神明社祭の曳山行事など）を紹介するコーナーを設ける
てイメージがわかない こなのかわからない	・関連部署が連携して取り組む ・堀のハスと千秋公園が絵になるようなまちづくり ・景観がよく、移動しやすく、歩きやすいまちづくりで、外出を促進する ・郷土史、歩く、観光、集まりをつなげる
の情報不足、周知不足 ていない	・イベントの情報発信を効果的に行う（なかいちタウン情報（民営）、インスタグラム、フェイスブック等、誰でも気軽に投稿できる方法を活用する）
い 近くにない 果が見えない への一極集中化 スがあっても本数が少なく、使い勝手が悪い） 病院と買い物できる場所への直通便があれ ず、乗り換えが大変 ろはコインバスも利用できず大変 十分、でもこれ以上無くならないでほしい 分の足で歩くようにした方がよい 必要 が必要 → 適性検査を頻繁に行う必要あり 可欠だが、高齢者の運転が心配 車で買い物や病院に送迎してあげたいが、 出ができない	・各サービスセンターを中心に病院や買い物など機能を集約し、それらをバスでつなげる ・バスなどの公共交通を充実させ、車を利用しなくてもいい環境をつくる ・免許返納した高齢者にバスの利用補助券のようなものを渡す ・バスに乗るとポイントが貯まる ・地域住民同士で乗り合いをする ・UBER（ウーバー）*システムを活用する ・電動シニアカーを活用する ・中心市街地に病院、学校、介護施設を設置する ・小学校の統廃合により朝・夕の時間にスクールバスを運行しているが、日中用途がないため、高齢者の外出促進に活用する ・マイタウンバスを曜日ごとに用途を決めて運行する ・車社会での車とのつきあい方を学ぶ機会をつくる ・「高齢者にやさしい車社会」についてみんなで考える ・イベント時にシャトルバスを出し、高齢者の参加を促す *UBER（ウーバー） アメリカ合衆国の企業であるウーバー・テクノロジーズが運営する、自動車配車ウェブサイトおよび配車アプリのこと
い（空き家、空き地、駐車場が増えたこと ない、喫茶店などがあると良い が困難 いていたのに、今は駐車場になってしまっ れていて散歩の楽しみだったが、除草剤 しまった 校・統合によりスクールバスになった） 必要 しい	・融雪道路・歩道の充実、バリアフリー化 ・市が冬期間に、除雪対応のために設ける「地域情報員」を他の地域活動にも活かす ・除雪を子どもと一緒にやり、雪祭りのようにイベント化する ・空き地に花を植える花ゲリラ活動をする

【領域Ⅱ】社会生活基盤

領域別施策１　住民主体のコミュニティ活動の創出と推進
領域別施策２　高齢者の多様な能力を活用した地域における支えあいの推進
領域別施策３　多様な生活支援サービスを利用できる地域づくりの推進

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理　　想	課
【意見交換会や集いで出された意見で、頻度が高く重要と思われるキーワード】 ・地域コミュニティの再構築 ・除雪などの地域課題の解決 ・自治会活動 ・民間企業の高齢化による人手不足を地域のコミュニティが担う 【論点】 地域コミュニティの再構築 【取組の方向性として考えること】 ・地域包括ケアの構築 ・高齢者の生きがいづくりや健康づくり ・子育てや保育の支援等	担い手不足、人材不足	・町内活動などにおいて、各世代、バランス良く構成されていること ・行政、民間、町内が連携し、地域の活性化が図られること ・若者の活躍の場をつくり、Uターンを増やすこと ・地域での困りごとを支えあいで解決できる関係があること（ただし、ほどよい距離感「つながりたいけれど、縛らない」関係性づくり） ・秋田の良さ、強みを認識し、しっかり発信できること ・人材育成、人材発掘のしくみがあること ・介助（世話）する人・される人が時と場合により入れ替わる（支え手と支えられる人が循環する）地域であること ・児童センターボランティアに子育て世代が積極的に参加してくれること	・町内会の年齢構成のバラ ・高齢者が多く、少子高齢 ・地域行事がなくなった ・核家族が多い ・高齢者と子ども（とその ・若い世代が県外に流出 ・若者が結婚しない、早婚 ・未婚者が増加 ・町内に元気がないと、市 ・元気の波及は町内→地区 ・町民運動会がなくなって ・事業を行っても人が集ま ・市で計画等を策定してもてほしい ・老人クラブが減少 ・働いている人が多く、町り上がらない ・地域活動への子どもの参 ・子ども同士のつながりが ・年齢層で地域への関わり ・メンバーの固定化、若者違う ・若者が故郷に戻って来な ・６５歳以上でも動ける人てほしい ・もっと活性化させたい ・若い人が町内活動に参加しいないようだ ・県営住宅の出入りが頻繁、 ・二世帯、三世帯同居が少内がある ・人が少ないため、地域活 ・若い世代の町内会加入が ・人材が埋もれている ・町内活動への不参加、や ・人材はいるが、地域活動 ・引っ越して新たに地域に ・地区の運動会への参加町
		・役員の負担が過度に重くない自治活動組織 ・町内会、民生委員活動の内容、やりがいなどが広く認識されていること ・意欲、能力、経験を持つ人材を把握し、マッチングできること	・町内会や民生委員の担い ・地域活動の負担の多さ ・町内会、地区社会福祉協担い手がいなくなる ・仕事と地域活動の両立 ・地域の役割について、仕 ・仕事から帰るとすぐに町動から活力ももらってい ・町内会長が機能していな ・町内の高齢者の相談は、き着くまで時間がかかる ・町内で誰が民生委員なの ・民生委員だけでは見守りにが必要なのに） ・民生委員が見守りする際、たり、結構大変だ、雪の ・民生委員は、余り地域とうに感じる ・民生委員が機能していな ・個人情報保護が高齢者のできている ・個人情報保護の観点から、民生委員としての関わり ・民生委員のなり手がいな
		・有償ボランティア、NPO による活動、コミュニティビジネス、ソーシャルビジネスなど多様な形でのボランティアやビジネスが創出されていること ・意欲、能力、経験を持つ人材を把握し、マッチングできること	・ボランティアの担い手不 ・何もかも無償でボランティ金を出してほしい ・児童センターでのボラン ・ボランティアするにも、Pがかかる

黒：若手職員意見交換会
茶：市民の集い
青：パートナーの集い

題	理想を実現させるための具体的な方法（例示）
ンスが悪い 化が進んでいる 親世代）の二極化傾向が見られる と未婚の二極化 全体の元気がなくなる →市 しまった らない 住民主体では進まない、市で引っ張っていっ 内活動への参加メンバーはいつも同じで盛 加を促す方法がわからない 薄い 方、つながり方が異なる は行事に参加しない、世代間での価値観が い がたくさんいるので、もっと外に出て頑張っ ない、特に未婚者は町内活動に興味を持って 特に若い世代 なくなり、高齢夫婦のみの世帯ばかりの町 動ができない ない りたがらない やリーダーを避ける傾向にある 住む人が町内会に入りたがらない 内が少ない	・祭り、除雪、運動会など、町内会と若い人材（企業の若手、スポーツ少年団、道場など）が連携する ・運動会などは、高齢者だけでは企画・運営が難しいため、学校による指導・支援を行う ・隣り合う地域も参加するような取組をすることで、互いに補う ・地域を混ぜてイベントを行う、人材をシャッフル（混ぜ合わせること）する ・町内会を活性化するにはパワーバランスが必要、４０歳以上になったら、誰でも役職につくのが当たり前にする ・町内会や地域活動を担っている７０～８０代と、退職間近の５０～６０代との役割の引き継ぎをスムーズにできる仕組みを作る ・町内会を見直し、もっと小さなグループ単位をたくさんつくり、共助体制を整える ・防災について、民児協、町内、社協、自主防災が合同で実施する ・町内会長を有償ボランティアにする ・町内会に若い人を参加させる方法をみんなで考える ・若者と高齢者の交流の場をつくり、４０代、５０代がその橋渡し役になる ・若い人の発想を、高齢者が多い地域に活かすしくみをつくる ・若い人や現役世代を手足のように使わない
手不足 議会、民生委員等の兼務や長期化傾向 → 事を持つ人は平日の会議は出にくい 内の仕事で休む暇が無い（しかし、地域活 るので、何とか頑張れる） い まず町内会長にすることが多く、行政に行 かわからない 限界がある（24時間体制、特に夜間の見守り 話し相手になったり、細かい用事を頼まれ 中歩いて回るのは大変 のふれあいがなく、義務感で働いているよ い 孤立化を進め、安否確認や防災が難しくなっ 地域活動がいろいろやりづらくなっている、 方も難しくなっている くなってしまう	・地域活動等は縦割りを解消して、横に連携することで引き受けやすくする ・会長や副会長を２年毎の任期として、分かる人が必ずいるようにする ・小学生など若いうちから、町内活動の必要性や楽しさを体験させ、教育する ・人材バンクを設立する ・シニア版シングルズカフェを実施する、目的は人材交流 ・地域の人が困っていることを掲示する場を作る → 役に立てそう！と思った人が立候補したり、派遣される ・様々な分野（学校、農業、企業）の世代間交流をマッチングする ・何かやりたい人を引き出してマッチングするしくみをつくる ・高齢だからできないではなく、できることからやる
足 アでやるのは限界があるので、行政が補助 ティア不足（若手の人材） C、コピー、プリント作りなど時間やコスト	・地域おこし協力隊を活用する ・「地域コミュニティの要望」と「NPO などの社会的活動」のマッチング ・他地域の地域活性化に取り組む人を支援する（例「秋田市内版地域おこし協力隊」） ・高齢者が学校で何か活動をすると謝金として５００円程度もらえるようにする

【領域Ⅱ】社会生活基盤

領域別施策１　住民主体のコミュニティ活動の創出と推進
領域別施策２　高齢者の多様な能力を活用した地域における支えあいの推進
領域別施策３　多様な生活支援サービスを利用できる地域づくりの推進

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理　　想	課
	地域コミュニティの再構築	・多世代が交流できる機会があること ・シニア男性の活躍の場があること ・選択縁（脱血縁、脱地縁、脱社縁の友人同士のネットワーク）があること ・好きなことを一つ持つこと ・外出が増えるような趣味を持つこと ・リタイア後も役割があること ・子ども、孫を介して親や祖父母が交流すること ・身体がきつくて外出できない人や人と関わりたくない人でも、人と交流したりつながったりする機会があること ・ウォーキングや運動をしたり、話し相手がいること ・隣近所に気軽に声掛けできる地域であること ・距離感を保ちながら、いざとなったら助け合える関係があること ・地域で活躍する準備を早い時期からしていること	・交流の機会が減り、つな ニア男性が気になる） ・高齢者がアクティブ派と ・高齢者（特に男性）が外 ・隣近所の交流が少ない ・子ども同士のつながりが ・子どもが成長すると親同 ・自分の親の世代の一人暮 困っていないか気がかり ・６５歳以下の方の暮らし らない ・男性はつるむことが難し ・閉じこもりがちな人は外 ・高齢者が多く、雪寄せ、 ・秋田の男性は女性に優し ・男性は奥さん、子どもを ・男性はシャイですれ違っ ・秋田の人は近県（山形や ・イベント等で、人集めす ・行事を開催する時、チラ たり、家を訪問し、話し ・行き詰まった時の行政の ・地区に合った事業展開を ・隣の人に気を遣って、自 ・訪問しても出てこない、 ・出てこない人をどうする ・高齢者生活支援体制整備 たので、そちらを参考に ・子どもを通じての付き合 まう ・６０代と７０代、８０代 ・高齢者が頑固で話を聞か 任してしまう ・最近はお茶のみも無くなり、 薄になった ・住民同士のつながりが希 ・自分でできることも介護 ・近所に男性高齢者の独り りがち ・女性に比較して男性の高 ・高齢者の財産処分、相続 *高齢者生活支援体制整備 高齢者を含めた地域住民の 企業などの多様な主体によっ するため、「生活支援コーディ 成・発掘等の地域資源の開
		・空き家、空き教室、町内会館を活用した、居場所づくりや様々な活動の拠点が地域にあること	・空き家、空き教室が増加 ・町内会館があまり使われ ・町内会館があまり使われ
		・サロンをもっと楽しく、利用しやすくして、地域住民がつながること ・サロンを通し高齢者の安否確認ができるネットワークがあること	・サロンを活性化させたい ・サロンをもっと住民の日 ベントのように考えたり、 はないかと考える住民が いない
		・高齢者の見守り体制がしっかりあること	・振り込め詐欺の電話や、 がある ・火の取り扱いなど注意が
		・認知症にやさしいまちであること	・悩みを抱える側は、家族 てくることに拒否感を覚 ・地域包括支援センターに

黒：若手職員意見交換会
茶：市民の集い
青：パートナーの集い

題	理想を実現させるための具体的な方法（例示）
がりが希薄化している（特に外に出ないシ ノンアクティブ派に二極化している に出てこない 希薄化（塾などで忙しい） 士のつながりが希薄になる らし（特に女性）が数名おり、日常生活で 方がわからない、接し方や見守り方がわか い に出てこなくて心配 木のせん定、草むしりが大変 く奥ゆかしい、恥ずかしがり屋 大切にするが、外に余り出てこない ても挨拶がないことがある 岩手）と違い、行動に移さない人が多い る努力をしない シ配布だけではなく、隣同士呼びかけ合っ て誘う工夫が必要 支援があるかが不安 してほしい 分らしく生きられない 回覧板を回さない人がいる か 事業*のワークショップでたくさん課題が出 して取り組みを検討してはどうか いは、子どもが大きくなると無くなってし の話が合わない ないため、話し合いが面倒になり会長に一 挨拶を交わす程度、コミュニケーションが希 薄になった サービスを利用している、大切にしすぎ？ 暮らしが増えた、家事などの日常生活に困 齢者が孤立しがち の問題、認知症 事業 自助・共助やボランティア、ＮＰＯ、民間 て生活支援サービスを提供する体制を整備 ネーター」「協議体」を設置し、担い手の育 発やネットワーク化を行う	・団塊世代を活用する場所をつくる ・新しい祭りによる活性化 ・米づくり、農業体験による多世代交流 ・地域住民が参加しやすく、負担感（メンタル的にも仕事量的にも）がない行事の企画 ・コミュニティスクールを開催する、地域版つむぎすと、人と人をつなぐことを行う ・スポーツを活用して交流する （例１）トップスポーツの活用、高齢者を巻き込む、応援の仕方を教えるなど （例２）外国人選手とその家族が地域住民と交流する機会をつくる、ホームステイ、料理教室などを実施 （例３）除雪でスポーツ（横手市で実施、福島県西会津町で誕生した除雪エクササイズの「ジョセササイズ」） ・運動と社会参加（人との交流）を兼ねた継続できる施策の普及・展開 （例１）「歩くべ！あきた！」を地域内や地域対抗等の形で定期的にイベント化し、全市に浸透・普及 （例２）そのほか、既存の体操、運動プログラムを仲間同士で実施できるよう工夫し展開 （例３）男性高齢者の参加率を向上させる工夫を考案 ・麻雀、音楽、飲み会、歌、釣りなどで男性の居場所をつくる ・空き地を畑にし、地域住民で作物を育て、コミセンで料理・食事を楽しむ ・婦人会で茶話会を企画する ・男性だけの会を作って活動する ・外出できない人を対象に、庭先でのおしゃべりやお茶のみ会を開き、声掛けして外に誘い出す ・「誰とでもガッコちゃっこ会」を開催する ・異性との集まりの機会を持つ
している ていない ずもったいない	・空き家や小学校の空き教室を活用してサロンをつくる ・空き家を寄付してもらい、地域で活用する → 空き家の活用を対象とした交付金の新設や地域づくり交付金の拡充 ・市で空き家を買い取り、地域コミュニティの活動に活用する ・利用頻度の低い町内会館を貸し出す（マッチングは行政で行う）
常生活に身近な存在にしたいが、特別なイ 行けば何かを手伝わなければいけないので 多く、気軽に立ち寄れる感覚が醸成されて	・サロンに小さなサークルの先生に来てもらう ・東京都文京区の「こまじいのうち」を参考に、子ども、ママ、高齢者など世代を超えて人が集まることができる居場所づくりを地区社協で進め、曜日ごとにテーマを変えるなど、参加しやすい工夫をする（東地区社会福祉協議会が運営するサロン「ふらっとさん」） ・サロン、カフェ、集える場所など、地域の資源をまとめた MAP をつくる ・住民による認知症予防のためのサロン活動が重要
健康食品などの営業電話など注意する必要 必要である	・老老介護、病気、独居高齢者へのサポート体制をつくる
の深刻な話に地域や町内の人が土足で入っ えることがある いろいろと相談したいが忙しそう	・隣近所や町内の人が認知症家族や独居高齢者宅を見守る体制をつくる（家族よりも地域の人たちが先に、認知症の傾向に気付くことがある） ・サロンで気軽に話せる体制をつくる ・認知症にやさしいまちづくりをモデル地区で始めて、各町内会へと広げる ・認知症の方を家族や周囲が認める環境づくりを進める ・サロンで認知症予防を実施する

【領域Ⅱ】社会生活基盤

領域別施策１　住民主体のコミュニティ活動の創出と推進
領域別施策２　高齢者の多様な能力を活用した地域における支えあいの推進
領域別施策３　多様な生活支援サービスを利用できる地域づくりの推進

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理　　想	課
	ビジネスの新たな展開	・高齢者がポイントなど有償でボランティア活動をし、そのポイントを使って楽しむことができること、さらに、地域経済の活性化につながること ・日常生活の支援など、シニアビジネスが創出され、地域の活性化につながっていること	・同じ人ばかり活動に参加 ・無償ボランティアでは担 ・特殊清掃は需要はあるが、 ・空き家や維持管理が大変代の住み替えがない
	ハード面の解決	・歩いて行ける範囲に公園、活動の拠点があること ・バスの利便性が良いこと（マイタウンバスやスクールバスも含めて）	・公園やコミセンが遠い ・自宅の近くに公園がない ・空き家、空き教室が増加 ・町内会館があまり使われ ・コミュニティセンターが ・町内会館を使う機会が少
		・活気があり、安全な地域であること ・安心して楽しみながら歩くことができる屋外環境であること ・多様な主体との協働による空き家対策が推進されること ・空き家について予防、解消、活用の取組が推進されること	・地域が殺風景になってし ・空き家が多い ・空き家、徘徊者、商店街 ・夜道が暗くて危ない、人 ・道路が狭い ・歩道が無くて危険 ・空き地や堤防の花が無くなってしまった） ・合併前と比べると行政と ・市役所で地域をリードす

黒：若手職員意見交換会
茶：市民の集い
青：パートナーの集い

題	理想を実現させるための具体的な方法（例示）
する い手がいない 広がらない方が良いビジネス な独居世帯の住宅を売買に出しても若い世	・高齢者の活動にポイントを付与し、地域通貨でもっきり屋で飲めたり、商店街で買い物ができるようにする ・空き家を活用してもっきり屋をやって、地域のつながりをつくる（特に男性の交流にお酒は有効） ・川反でワークショップをやる、地元にお金を落とす ・高齢者が学校で何か活動をすることで謝金として５００円程度もらえるようにする
ていない 遠い ない	・もっと地域に合う公園の再配置を行う
まい、危険な場所がある の衰退が目につくようになった 通り、車通りが少ない、街灯が少ない なってしまって寂しい（空き地は駐車場に 市民が遠い る人がいない	・堤防の草刈りをする ・花ゲリラをする（空き地があれば花を植えたい、散歩中に種を持ち歩き、花を植える） ・苗は買わなくても、持っている人からもらい、花を通じた交流をする

【領域Ⅲ】産業・経済基盤

領域別施策１　超高齢社会をチャンスと捉えた新たなビジネスの創出・支援
領域別施策２　高齢者の活躍を総合的に支援する体制構築
領域別施策３　地域課題解決につながるコミュニティビジネスの推進

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理　　想	課
【意見交換会や集いで出された意見で、頻度が高く重要と思われるキーワード】 ・シニアを活用したビジネスの展開 ・コミュニティビジネスの創出 ・未来を支える人材力の強化（働き手自らの主体的なキャリアアップの取組支援） 【論点】 ビジネスの新たな展開 【取組の方向性として考えること】 ・シニア向けの産業・観光を担う組織づくり ・起業環境の整備 ・秋田の資源を活かした商品開発（秋田ブランド）	担い手不足、人材不足	・後継者への引き継ぎについて、５０代くらいから準備をしていること ・地域で活躍する準備をしていること	・世代交代がスムーズにい ・農業の担い手が不足して ・人口減少、事業所の減少、 ・空き家の増加 → 自社サー
		・ポイント制など、有償ボランティアがあるといい	・無償ボランティアではな
	地域コミュニティの再構築	・団塊世代および若年層が活躍する場があること	・高齢男性の孤立化 ・家に閉じこもる人が多い ・男性高齢者の独り暮らし ・女性に比較し、男性は孤
		・高齢者や若者の活躍の場として、空き家、空き地を活用する ・子どもがのびのびと楽しく、社会性を学びながら成長できるまち	・空き家、空き店舗、空き
	ビジネスの新たな展開	・何歳になっても、本人が希望すれば雇用や活躍の機会がある社会 ・上手くお金が回る社会（若者も高齢者も収入を得て、使える社会） ・シニア自身がシニアビジネスに参入	・高齢者が有償で活躍でき ・高齢者や若者がお金を使 ・農業の担い手が不足して ・人口減少に伴う事業所減 ・雇用枠が減少、高齢者が ・秋田にもう一度来ようと ・超高齢社会の到来への関 ・秋田はサービススタンダー
		・シニア向けサービスの充実により、産業の活性化と高齢者が暮らしやすくなること ・誰でも気軽に参加できるビジネスがあること ・行政で行うサービスをより自由に地域で行う	・高齢者の不安・不便を解 ・高齢者の暮らしの不便をはないか？ ・健康寿命を延ばす必要が ・独居高齢者や高齢者のみ

黒：若手職員意見交換会
茶：市民の集い
青：パートナーの集い

題	理想を実現させるための具体的な方法（例示）
かない いる 雇用の減少 ビス利用者の減少（ガス供給事業者）	・後継者の世代交代をシステム化する ・退職後に自分の得意とすることを登録する「人材バンク」を開設する
かなか人が集まらない	・組織活動に参加するメリットを持たせる、例えば、有償（ポイント制含む）ボランティアや活動内容に楽しみを持たせるなど
（特に男性） が増えた 立しがち	・団塊の世代を対象に、コミュニティビジネスやサロン活動の活性化を支援する、例えば、活動団体を NPO など組織化したり、あるいは既存の NPO のノウハウ、ネットワーク等を活用したりすることで、高齢者が役割を持ち、社会参加・生きがいづくりを推進するほか、若者の雇用を生み出す ・サロンの場を利用し、事業者による製品/サービス PR の場を兼ねる等、お金を生む仕組みを考える
地の増加	・空き家を寄付してもらい、地域活動や NPO の拠点、起業の事務所等に活用する ・コミセン等を活用している団体等に、空き家改装費の補助を出す → 空き家を活用したサロンや地域活動等を実施する → 活動を継続する場合は NPO 法人化し、自分たちで活動資金を調達する ・空き家や空き地を活用し、子どもの居場所とし、読書や学習、運動や遊びなど多様な体験ができるようにする、高齢者や学生が学習や遊びを指導したり見守りをする
る場が少ない わない いる 少により、働く場が減少 働ける場所が少ない いう気にならない 心が薄い ド（サービスの品質、標準）が低い	・超高齢社会のトップランナーであることや、３０万都市の人口を活かし、全国の「シニア向け商品・サービス」開発企業からモニター依頼を受ける、モニターはポイント制などにし、高齢者にインセンティブを与える ・秋田野菜（例）のブランド化 高齢者が主体となって農業で秋田ブランドを作り、県外へ宣伝する、高齢者それぞれが得意分野を活かし、農作業、加工、広報、梱包、運送などの作業を分担する、外に出てこない男性高齢者に野菜を収穫した後の作業（袋詰めなど）をしてもらう ・雄和地区の資源であるダリアの活用を図る ・セリオン内のうどん・そば自販機を活用したイベント・町おこしなどの実施 ・美大施設（カフェなど）の活用 ・定年を６５歳に、再雇用は６５歳～７５歳程度にする ・企業は採用の際、６５歳以上の採用枠を設ける ・研修会の開催（エイジフレンドリーパートナー研修会と同時開催でもいいのでは？） ・起業を相談する窓口の設置（または既存の窓口があるなら積極的に周知・PR） ・秋田および日本のシニア市場動向等のお役立ち情報提供（ニーズ調査の結果等） ・ビジネスのアイデアコンテストを行い、優秀なものには資金面で補助を行う ・空き家をオフィスとして貸し出す ・ビジネススクールを開催する ・高齢者にやさしい自動販売機を秋田からつくる
消してほしい 解決できるビジネス参入の余地はあるので ある 世帯の除雪が困難なケースがある	・高齢者相談専門のサービス業（日常の困りごとなど、何でも屋） ・地域困りごと解決策アイデアコンペを実施する → 他団体に実際にやってもらう ・健康寿命を延ばす製品（食品）の開発 ・高齢者の食べる楽しみを継続させるために、口腔・歯のケアを充実させる ・シニア版「シングルズカフェ」・・・・高齢者同士の交流や出会いの場、会場や時間は多様にして開催、地域サロンでお酒を楽しむ、シングルに限らず、友達づくりの場とする ・カフェ、居酒屋、遊戯施設をシニアの商業の場として発展させる → 地域経済の活性化 → 次世代の雇用の場の増加につながる ・買い物弱者への送迎サービス、家庭への宅配ではなく、買い物に連れて行くサービスを充実させることで、介護予防につなげる ・民間交通サービス UBER を活用し気軽に外出できるようにする ・独居高齢者宅の除雪を、企業の若い世代がサークル活動（ボランティア）として実施し、自社製品/サービスの PR の場も兼ねる、または除雪をスポーツとしてイベントを開催、日本ジョセササイズなど

【領域Ⅲ】産業・経済基盤

領域別施策１　超高齢社会をチャンスと捉えた新たなビジネスの創出・支援
領域別施策２　高齢者の活躍を総合的に支援する体制構築
領域別施策３　地域課題解決につながるコミュニティビジネスの推進

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理　　想	課
	ビジネスの新たな展開	・商店街の活性化、お金が回る	・商店街の衰退
		・高齢化の先進地で、超高齢社会の到来を踏まえた今後のビジネス展開を考える	・事業者が超高齢社会に関 ・秋田にもう一度来ようと ・サービススタンダードが

黒：若手職員意見交換会
茶：市民の集い
青：パートナーの集い

題	理想を実現させるための具体的な方法（例示）
	・高齢者の活動にポイントを付与し、地域通貨としてもっきり屋で飲んだり、商店街で買い物したりできるようにする、空き家を活用してもっきり屋をやる ・川反でワークショップをやる、地元にお金を落とす
心がない（または知識がない） いう気にならない 低い	・中小企業、個人事業を対象とした啓発と教育の充実化 ・超高齢社会への危機感を認識し、課題と可能性を啓発するための研修等の開催 ・サービス業/ホスピタリティマインドの教育支援（高齢者にやさしい「おもてなし」→他の世代にもやさしい） ・限られた商圏ではなく、販路を県外・海外に向けるための情報提供や支援（製品開発、マーケティング、営業等）

【領域Ⅳ】教育・文化基盤

領域別施策１　生涯を通じた文化・スポーツ活動の推進
領域別施策２　多世代が交流し、支えあう地域づくり
領域別施策３　秋田に誇りと愛着を持つひとづくり

キーワード、論点、方向性	重点テーマ	理　　想	課
【意見交換会や集いで出された意見で、頻度が高く重要と思われるキーワード】 ・高齢者のスキル活用 ・人材の確保と育成制度、教育のブランド化 【論点】 担い手不足、人材不足 【取組の方向性として考えること】 ・シニアスポーツの活性化 ・地域リーダーの育成支援 ・シビックプライド（civic pride）の醸成	担い手不足、人材不足	・大学生が卒業後、県外に流出せず、地元で活躍できること	・担い手となる（若い）人 ・高校卒業後/大学卒業後に、 ・若者が故郷に戻ってこな ・担い手の高齢化（若い世 ・夏のおけさ踊りでは担い ・地域に子どもがいない ・超高齢社会の到来に関心 ・高齢者が自分らしく最後
		・住民一人ひとりにシビックプライド（civic pride）が育まれていること	
		・文化の担い手育成のために、中核となる指導者がいること	・（人材がいたとしても）担 ・人材はいるが、誰もリー
	地域コミュニティの再構築	・人と人がつながる場があること	・地域内の人と人とのつな ・地域に子どもがいない ・世代を超えた関わりがな ・子ども同士のつながりが ・認知症対策には、図書館事 ・男性高齢者の孤立化が目 ・祭りは人が集まる良い機 ・男性の人生が会社（仕事） ・高齢者予備軍が勉強する
		・地域の文化的行事・イベントを無理なく継続する方法をつくる	・地域の文化的行事、イベ ・祭りをやめるのは簡単だたい） ・町内運動会が無くなった ・町内運動会への参加が少も連動している ・セリオンで、土崎神明社ナーがない、もっと情報
		・生涯学習としての教え合い・学び合いの場をつくる	・高齢者の活躍の場が不足 ・児童センターでのボラン ・地域で「好きなこと」を
		・高齢者の見識やスキルを、地域ボランティアで役立てるシステムを構築する（人的支援のマッチング）また、ボランティアは完全無償ではなく、ポイント制/有償とし、継続への動機付けを図る	
	ビジネスの新たな展開	・教育水準の高さや、子どもを育成するにあたっての環境の良さをブランド化し、新規ビジネスおよび人口減少対策につなげる	・「学力テストトップクラス」

黒：若手職員意見交換会
茶：市民の集い
青：パートナーの集い

題	理想を実現させるための具体的な方法（例示）
材を確保する必要がある 若者が県外に流出してしまう い 代の担い手がいない） 手不足 がない まで暮らせる環境が必要	・秋田暮らしの魅力づくり ・魅力ある就職先、起業支援 ・ワークライフバランス、コストパフォーマンスの良い生活等秋田暮らしの魅力をＰＲ
	・秋田の地域教育（文化、歴史、産業の教育、地域行事への参加、ボランティア活動等）を充実させ、幼い頃からシビックプライド（civic pride）を醸成 ・高齢者を指導者として活用することにより、活躍の場の創出、世代間交流も促進
い手として育て上げる制度・環境が不足 ダーをやりたがらない	・指導者認定制度の確立 ・指導者を必要とするジャンルにおいて、一定の知識・経験を持つ人が試験と研修を受け、市認定の指導者資格を持つ
がりが薄い い 薄い 通いよりも運動や話し相手がいることが大 立つ 会だが、予算の関係上規模が縮小 になってしまっている 場が必要	・世代を超えたつながりを強化する施策の実施 ・地域の高齢者を講師として、秋田市の地域教育（文化、歴史、産業等）を実施 ・地域の人と学校の交流を増やすイベント/行事の実施 例）地域の文化や遊びを伝えるイベント、町内運動会と学校とのコラボ、農園活動など ・民生委員/町内会などによる子ども会活動の活発化を促進 ・若い世代と高齢者の共通の趣味や、男性高齢者が関心を持つサロンの創設を支援（または既存のサロンを利用） ・つながりをつくる場の確保 ・学校内に地域の人が利用できる場所をつくる ・廃校や空き施設、児童センターを利用して子どもと高齢者が交流 ・おじいさん、おばあさんのつくった料理を美味しくいただく食育の時間をつくる ・食からの地域の活性化、地域の人が作った作物をもっと積極的に給食に使う
ントが衰退 が、始めるのは難しい（大変だが、継続し ない、「担い手不足」（若い世代の流出）と 祭の曳山行事を紹介し宣伝する機会やコー 発信した方が良い	・人手不足/参加者不足をビジネス化して解消する ・地域内のつながりの強化、閉じこもりがちな住民と、民生委員や地域住民が日常的なコミュニケーションの強化を図る ・他町内や団体と類似イベントの共同開催（または、互いの行事・イベントで助け合う体制を構築） 例）町内運動会 → 隣の町内と合同（対抗）、または圏域内、秋田市全体・・・など合同開催 ・町内外/市内外問わず、外部から文化的行事に参加/手伝ってくれる人を募集（地域おこし協力隊員を投入するなど） ・地域の小中学校と連携し、地域の人と学校の交流を増やすイベント/行事を実施 例）学校教育の一環として地域の行事に子どもたちが参加 学区内の町内と運動会を共同開催 ・担い手の確保・育成（若者のＵターン促進、指導者の育成、等）
ティアが不足 やりたい、しばられたくない	・高齢者が気軽に誰でも先生になれる、誰でも学ぶことができる機会/場を創出 ・サロン活動の一環として、高齢者が教える/学ぶ機会を創出支援 例）スマホ、洋裁、手芸、ダンス、音楽、麻雀、健康教室、ガーデニング等 ・ボランティアセンターを通し、「こんなことできます」掲示を出し、スキルを必要としているボランティア先とのマッチングを図る ・サロン活動を超えた社会活動への発展支援（関連団体との連携） 例）ガーデニングを学ぶ → 町を花でいっぱいにする活動につなげる ・軽スポーツの活動場所をつくる(特に冬場)
	・シニアボランティアバンクの設立 ・退職後に登録（６５歳以上）し、高齢者が持つスキルと地域活動のマッチングを行う → 審議会委員データベースなどの市が持つ既存データベースを利用できないか？ ・介護支援ボランティアのポイント制度を他のボランティア活動にも拡充する ・個人のボランティア履歴など一元管理できる仕組みを作る ・高齢者の体験談を募集しデータベース化する
という強みを活かせていない	・優秀な小・中学校をブランド化し、移住者を増やす ・東京/近郊にある有名私立小中高を誘致し、秋田校を創設する ・夏休みなどに勉強合宿ツアー（勉強と自然を満喫）を誘致する

第２次
秋田市エイジフレンドリーシティ
（高齢者にやさしい都市）
行動計画

平成２９年３月策定
平成２９年６月発行

編集・発行◎秋田市福祉保健部長寿福祉課
〒010-8560　秋田市山王一丁目１番１号
TEL　018－888－5666
www.city.akita.akita.jp/city/wf/lg

印刷・製本◎株式会社　三戸印刷所
〒010-0923　秋田市旭北錦町３番50号
TEL　018－823－5351

第２次
秋田市エイジフレンドリーシティ
（高齢者にやさしい都市）
行動計画